

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	国際外語・観光・エアライン専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養専門課程	国際英語コミュニケーション科	夜・通信		160時間 (2年制)	○
	国際英語コミュニケーション科 (3年制)	夜・通信		240時間 (3年制)	○
	韓国語コミュニケーション科	夜・通信		160時間 (2年制)	○
	中国語コミュニケーション科	夜・通信		160時間 (2年制)	○
	国際エアライン科	夜・通信	697 単位時間	160時間 (2年制)	
	観光デザイン科	夜・通信	884 単位時間	160時間 (2年制)	
	国際観光大学併修科	夜・通信	884 単位時間	320時間 (4年制)	
	専攻科 オンライン韓国語コース	夜・通信		80時間 (1年制)	○
	専攻科 英語留学コース	夜・通信		80時間 (1年制)	○
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

国際外語・観光・エアライン専門学校 ホームページに掲載 https://www.air.ac.jp/koukai
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
<ul style="list-style-type: none">・国際英語コミュニケーション科（2年制/3年制）・韓国語コミュニケーション科・中国語コミュニケーション科・専攻科（オンライン韓国語コース 英語留学コース）
（困難である理由）
上記の学科は専門科目が語学中心であることから、幅広い分野での就職を目指し、特定の職業を想定せず、汎用的な知識と技術の習得を目指す学科であるため。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	国際外語・観光・エアライン専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.air.ac.jp/koukai

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2023年6月 1日～2027 年5月31日	政策的観点
非常勤	団体職員	2023年6月 1日～2027 年5月31日	教育統括的視点
非常勤	弁護士	2023年6月 1日～2027 年5月31日	法的観点
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	国際外語・観光・エアライン専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

シラバスは、学生が授業の内容を十分に把握した上で受講できることを目的とし、授業概要、内容と計画について記載したものである。学生が、授業概要や授業内容、計画を把握した上で授業受講できることを目的とし、シラバスを十分に活用し、事前に授業準備を行うことで学びを深めることを期待する。

また、学生のみならず、教員自身もシラバスを活用することで授業の充実や改善に役立てることも期待する。

【シラバスの記載事項】

◆科目基本情報

(対象学科・学年、科目名、開講期間、必修・選択、授業時間数、期間)

◆科目概要と到達目標

◆授業の進め方・学習方法・課題

◆成績評価方法と評価基準

◆使用テキスト

◆授業内容と学習のねらい

【授業計画の作成過程と公表について】

- | | |
|-----|---|
| 10月 | 各学科の前期における授業科目内容、学生の学習成果、検定取得状況、研修内容とその効果の振り返りを行う。
学習成果、検定実績、研修の状況を各学科の教育編成委員会で報告し、委員の意見を反映させ、学科担当者は次年度に向けた見直しを図る。 |
| 11月 | 学科担当者及び教育編成の意見を基に、次年度に向けた各学科教育目標、到達目標及び教育方針の見直しを図る。 |
| 12月 | 見直し案を基に、次年度の学科方針、教育目標、到達目標、カリキュラムを決定し、授業計画の作成を開始する。 |
| 1月 | 次年度の年間スケジュール案を基に、学科スケジュールを調整。 |
| 2月 | 学校全体の年間スケジュールが確定した後、学科スケジュールを確定し、学科の授業計画（シラバス）、時間割を決定。 |
| 3月 | 各学科の確定した教育目標及び到達目標を基に作成した授業計画（シラバス）について教育編成委員会で報告。意見があった場合は調整し、最終的に学校長の承認をもって最終決定。 |
| 3月末 | 授業計画（シラバス）をホームページにて公表 |

授業計画書の公表方法	国際外語・観光・エアライン専門学校 ホームページ https://www.air.ac.jp/koukai
------------	---

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

- ・通年科目について、科目ごとに、前期・後期に期末試験を行い、原則として後期終了後に成績評価を行う。前期のみ、もしくは後期のみの授業に関しては、期末に試験を行い、その結果を基に成績評価を行う。
- ・成績評価表は、年に1度の年度末(3月)に保護者宛てに送付する。
- ・成績評価の基準については、科目によって異なるが、出席率、普段の授業態度及び学習意欲、科目終了時の考査・確認テスト、検定がある科目については検定取得状況、提出物を基に行う。検定対策科目については、特に検定結果を重視して評価を行う。科目の具体的な評価についてはそれぞれの授業計画(シラバス)を参照のこと。
- ・評価形式はA・B・C・Dの4段階で行い、成績表に記載される。
- ・成績基準については、次の通りとする。
 - A:秀(100-90) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた。
 - B:優(89-80) 達成目標を十分に達成している。
 - C:良(79-70) 達成目標を達成している。
 - D:可(69-60) 達成目標を最低限達成している。
 - F:不可(59-0) 達成目標に達成していない。
- ・各科目の出席時間数の80%に満たない場合は学期末試験を受験することができないが、不足した時間数を補講等で補い、課せられた課題を提出することで追試試験を受験することができる。また、追試試験等で合格した科目評価は原則D評価となる。
- ・期末試験でF評価であった場合、追試試験を受験することができるが、原則として追試合格についてはD評価となる。
- ・追試試験等は1科目につき受験料3,000円かかり、納入後に追試を受験することができる。
- ・追試試験を受験する際には、追試試験料支払い証明書を提示すること。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ・客観的な成績指標については、
 - A=4、B=3、C=2、D=1とし、各科目の成績評価を数値化する。すべての科目を合計し、科目数で除した数字を基に成績分布図を作成することで、クラス内における学生一人一人の就学状況を把握することができる。
- ・年度末の各科成績表に基づいて成績分布図を作成し、下位4分の1の学生については警告を与える。(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

客観的な指標の算出方法の公表方法	国際外語・観光・エアライン専門学校 ホームページ https://www.air.ac.jp/koukai 「授業科目の成績評価及び進級・卒業基準について」参照
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本校の建学の精神である「教育・文化を通じて地域社会・国家の発展に寄与する」を基に、以下のディプロマポリシーに定める能力を修得し、かつ定められた授業単位時間数及び各学科が定める卒業基準を修得している学生に卒業を認定し、「専門士」の称号が付与される。</p> <p>《ディプロマポリシー》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一社会人として礼節を重んじ、相手の立場に立って考えて判断し、行動ができること。 ・グローバルな視野に立ち、時代の変化に柔軟に対応できる力を身に付けていること。 ・国際社会に意識を向け積極的に貢献できる人材であること。 ・自らの考えを主張した基本的なプレゼンテーション能力を習得していること。 ・それぞれの専攻する分野で生きた技能・知識を習得し、資格を取得していること。 ・社会で貢献するために必要とされる一般常識、社会人基礎力、コミュニケーション能力を習得していること。 <p>《卒業条件》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全年次の出席が80%以上であること。 ・全年次の科目評価が全て(可)D以上であること。 ・各学科で設定されている卒業基準を修得していること。 ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。 ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。 ・その他、生活行為等において問題がないこと。 <p>(※1)CFPポイントとはCollege League Fieldwork Programの略称であり、人間力育成の学校教育方針のもと、積極性、社会性、地域貢献、奉仕の精神を育成するため、学校全体行事、学科行事、学校以外で実施される課外活動、ボランティア活動等に参加することでそれぞれポイントが付与される。</p> <p>《卒業判定》</p> <p>後期修了後の2月中旬に卒業判定会議を実施する。判定会議には、学校長、教務部長、事務局長、学科長、担任が出席し、卒業条件である出席率、成績評価、各学科が定める卒業基準、海外活動等の積極的参加ポイントであるCFPポイント、学費等の完納をベースとして卒業の可否を判定する。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	国際外語・観光・エアライン専門学校 ホームページ http://www.air.ac.jp/koukai 「ディプロマポリシーと卒業認定」参照

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	国際外語・観光・エアライン専門学校
設置者名	学校法人 国際総合学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.air.ac.jp/koukai
収支計算書又は損益計算書	http://www.air.ac.jp/koukai
財産目録	http://www.air.ac.jp/koukai
事業報告書	http://www.air.ac.jp/koukai
監事による監査報告（書）	http://www.air.ac.jp/koukai

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	国際英語コミュニケーション科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1700 単位時間	1258 単位 時間	289 単位 時間	187 単位 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			1734 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		30人	0人	3人	14人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）概要）国際英語コミュニケーション科の授業方法は、通年を通して座学及び演習が中心です。語学力向上と並行し、グローバル人材育成を目指し「環境に強い」「柔軟に対応できる」「変化に強い」という3つの要素を身に着けることを目指します。</p> <p>英語の授業はレベル別クラスであり、1年次では基礎固めとなる英語演習をはじめ、発音ベースを学ぶフォニックスの授業、日常会話表現を学べる会話授業、ホテルなどで使用する語彙、イディオムから表現方法を学びます。また、語学の向上は勿論、グローバル人材育成を目的として、1年次の後期には授業の一環で海外研修プログラムに参加します。</p> <p>2年次ではアウトプットを中心とし、トピックに沿って自分の意見を述べられるように瞬発力をつけるディスカッションクラス、ビジネス表現、マナーを学ぶビジネス英語クラス、自国の文化、地元の観光地を英語で案内することを目的とする文化クラス、また4技能をすべて高めるワンランク上級の英語力の応用力を養います。</p> <p>社会で活用できる英語能力の向上を目的に1年次、2年次の7月、9月、11</p>

月には TOEIC を受験します。

また、語学の学びのみならず、課外活動も重要としています。主に1年次でホテルをはじめとした企業インターンシップ、校外での様々なボランティア活動、地元に着した活動である新潟総踊り、海外の姉妹提携校から語学・文化研修で来校する留学生との交流会等、授業以外の課外活動に参加することでグローバル人間力に欠かせない積極性を培います。

成績評価の基準・方法

(概要)

- ・成績評価は原則として科目ごとに、前期・後期終了後、それぞれ1回ずつ行う。
- ・成績評価は、科目ごとに出席率、普段の授業態度及び学習意欲、科目終了時の考査・確認テスト、検定取得状況、提出物を基に行う。

- ・検定対策科目については、検定結果を重視して評価を行う。
- ・評価形式は A・B・C・D の4段階で行い、成績表に記載される。

- ・成績基準については、以下の通りとする。
A:秀(100-90) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた。
B:優(89-80) 達成目標を十分に達成している。
C:良(79-70) 達成目標を達成している。
D:可(69-60) 達成目標を最低限達成している。
F:不可(59-0) 達成目標に達成していない。

- ・各科目の出席時間数の80%に満たない場合は学期末試験を受験することができないが、不足した時間数を補講で補い、課せられた課題を提出することで追試験を受験することができる。また、追試験等で合格した科目評価は原則D評価となる。
- ・期末試験でF評価であった場合、追試験を受験することができるが、原則として追試験合格についてはD評価となる。
- ・追試験等は1科目につき受験料3,000円掛かり、納入後に追試を受験することができる。

卒業・進級の認定基準

(概要)

《卒業条件》

- ・全年次の出席が80%以上であること。
- ・全年次の科目評価が全てD以上であること。
- ・各学科で設定されている卒業基準検定を取得していること。
- ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。
- ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。
- ・その他、生活行為等において問題がないこと。

《進級条件》

- ・1年次の出席が良好であること。
- ・1年次の科目評価が全てD以上であること。
- ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。
- ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。
- ・その他、生活行為等において問題がないこと。

<p>(※1)CFP ポイントとは College-League Fieldwork Program の略称であり、人間力育成の学校教育方針のもと、積極性、社会性、地域貢献、奉仕の精神育成を目的とし、学校全体行事、学科行事、学校以外で実施される課外活動、ボランティア活動等に参加することでそれぞれポイントが付与される。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要) 当校はクラス担任制を採用しており、学習未達の学生、欠席が多い学生に対し次の支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任によるカウンセリング体制 ・保護者との連携（電話での状況報告、来校による面談） ・スクールカウンセラーの活用 ・学習面については、放課後、休み時間や長期休暇を活用しての補講授業を実施

<p>卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
26人 (100%)	0人 (%)	21人 (80.8%)	5人 (19.2%)
<p>(主な就職、業界等) ホテル業界 教育業界 IT企業 アパレル業界 製造・販売</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職研修の実施（1年次2回） （就職の流れと準備、企業研究の方法、書類作成指導、求職登録） ・模擬面接指導 ・学科担当者による業界指導 ・SPI 対策授業 ・企業人事担当者からの講演 			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>【TOEIC スコア】</p> <p>TOEIC 最高 875 点</p> <p>TOEIC スコア 600 点以上 4 名</p> <p>TOEIC スコア 500 点以上 7 名</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

<p>中途退学の現状</p>		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
37 人	1 人	2.7%
<p>(中途退学の主な理由) 就職を希望</p>		

(中退防止・中退者支援のための取組)
・定期的な担任との面談
・外部産業カウンセラーの活用
・適正検査報告書を活用した学生面談
・奨学金制度の活用

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	国際英語コミュニケーション科 (3年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2550 単位時間	2108 単位 時間	289 単位 時間	187 単位 時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
	2584 単位時間						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10人		4人	0人	3人	14人	17人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 概要) 国際英語コミュニケーション科の授業方法は、通年を通して座学及び演習が中心です。語学力向上と並行し、グローバル人材育成を目指し「環境に強い」「柔軟に対応できる」「変化に強い」という3つの要素を身に着けることを目指します。</p> <p>英語の授業はレベル別クラスであり、1年次では基礎固めとなる英語演習をはじめ、発音ベースを学ぶフォニックスの授業、日常会話表現を学べる会話授業、ホテルなどで使用する語彙、イディオムから表現方法を学びます。また、語学の向上は勿論、グローバル人材育成を目的として、1年次の後期には授業の一環で海外研修プログラムに参加します。</p> <p>2年次ではアウトプットを中心とし、トピックに沿って自分の意見を述べられるように瞬発力をつけるディスカッションクラス、ビジネス表現、マナーを学ぶビジネス英語クラス、自国の文化、地元の観光地を英語で案内することを目的とする文化クラス、また4技能をすべて高めるワンランク上級の英語力の応用力を養います。</p> <p>社会で活用できる英語能力の向上を目的に1年次、2年次の7月、9月、11月にはTOEICを受験します。</p> <p>また、語学の学びのみならず、課外活動も重要としています。主に1年次でホテルをはじめとした企業インターンシップ、校外での様々なボランティア活動、地元に着した活動である新潟総踊り、海外の姉妹提携校から語学・文化研修で来校する留学生との交流会等、授業以外の課外活動に参加することでグローバル人間力に欠かせない積極性を培います。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は原則として科目ごとに、前期・後期終了後、それぞれ1回ずつ行う。 ・成績評価は、科目ごとに出席率、普段の授業態度及び学習意欲、科目終了時の考査・確認テスト、検定取得状況、提出物を基に行う。

- ・検定対策科目については、検定結果を重視して評価を行う。
 - ・評価形式はA・B・C・Dの4段階で行い、成績表に記載される。
-
- ・成績基準については、以下の通りとする。
 - A:秀(100-90) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた。
 - B:優(89-80) 達成目標を十分に達成している。
 - C:良(79-70) 達成目標を達成している。
 - D:可(69-60) 達成目標を最低限達成している。
 - F:不可(59-0) 達成目標に達成していない。
-
- ・各科目の出席時間数の80%に満たない場合は学期末試験を受験することができないが、不足した時間数を補講で補い、課せられた課題を提出することで追試試験を受験することができる。また、追試試験等で合格した科目評価は原則D評価となる。
 - ・期末試験でF評価であった場合、追試試験を受験することができるが、原則として追試合格についてはD評価となる。
 - ・追試試験等は1科目につき受験料3,000円掛かり、納入後に追試を受験することができる。

卒業・進級の認定基準

(概要)

《卒業条件》

- ・全年次の出席が80%以上であること。
- ・全年次の科目評価が全てD以上であること。
- ・各学科で設定されている卒業基準検定を取得していること。
- ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。
- ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。
- ・その他、生活行為等において問題がないこと。

《進級条件》

- ・1年次の出席が良好であること。
- ・1年次の科目評価が全てD以上であること。
- ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。
- ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。
- ・その他、生活行為等において問題がないこと。

(※1)CFPポイントとはCollege-League Fieldwork Programの略称であり、人間力育成の学校教育方針のもと、積極性、社会性、地域貢献、奉仕の精神育成を目的とし、学校全体行事、学科行事、学校以外で実施される課外活動、ボランティア活動等に参加することでそれぞれポイントが付与される。

学修支援等

(概要)当校はクラス担任制を採用しており、学習未達の学生、欠席が多い学生に対し次の支援を行っている。

- ・担任によるカウンセリング体制
- ・保護者との連携(電話での状況報告、来校による面談)
- ・スクールカウンセラーの活用
- ・学習面については、放課後、休み時間や長期休暇を活用しての補講授業を実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 （ %）	0人 （ %）	0人 （ %）	0人 （ %）
（主な就職、業界等） 卒業生がいないため、実績なし			
（就職指導内容） ・就職研修の実施（1年次2回） （就職の流れと準備、企業研究の方法、書類作成指導、求職登録） ・模擬面接指導 ・学科担当者による業界指導 ・SPI 対策授業 ・企業人事担当者からの講演			
（主な学修成果（資格・検定等）） 近年、在校生がいないため実績なし			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・定期的な担任との面談 ・外部産業カウンセラーの活用 ・適正検査報告書を活用した学生面談 ・奨学金制度の活用		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	韓国語コミュニケー ション科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1700 単位時間	1377 単位 時間	153 単位 時間	170 単位 時間	単位時間	単位時間
			1700 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		43人	0人	2人	15人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業方法は、通年を通して座学及び演習が中心です。</p> <p>「英語+韓国語」の2つの外国語の基礎技能を徹底的に学び、これからの国際社会で活躍できる人材を育成することを目的としています。</p> <p>そのため、外国語の習得はもちろん文化や社会の理解、異文化コミュニケーション能力、世界で通用するホスピタリティマインドを習得できるカリキュラムとなっています。</p> <p>1年次の終わりに姉妹校での韓国研修プログラムを実施しています。学んだ語学を活用し、学生一人一人が1年次で学んだ語学の習得を確認すること、そして、2年次での学びの目標を設定することを目的とした2週間の海外研修プログラムが必須となります。</p> <p>2年次ではアウトプットを中心に授業を進め、学んだ語学を活用し、生活のこと、身の回りのこと、時事問題のことについてもコミュニケーションが図れ、話す、聞く、読む、書く能力を身に付け、中級レベル取得を目指します。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は原則として科目ごとに、前期・後期終了後、それぞれ1回ずつ行う。 ・成績評価は、科目ごとに出席率、普段の授業態度及び学習意欲、科目終了時の考査・確認テスト、検定取得状況、提出物を基に行う。 ・検定対策科目については、検定結果を重視して評価を行う。 ・評価形式はA・B・C・Dの4段階で行い、成績表に記載される。 ・成績基準については、以下の通りとする。 <ul style="list-style-type: none"> A:秀(100-90) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた。 B:優(89-80) 達成目標を十分に達成している。 C:良(79-70) 達成目標を達成している。 D:可(69-60) 達成目標を最低限達成している。 F:不可(59-0) 達成目標に達成していない。 ・各科目の出席時間数の80%に満たない場合は学期末試験を受験することができないが、不足した時間数を補講で補い、課せられた課題を提出することで追試試験を受験することができる。また、追試試験等で合格した科目評価は原則D評価となる。 ・期末試験でF評価であった場合、追試試験を受験することができるが、原則として追試合格についてはD評価となる。 ・追試試験等は1科目につき受験料3,000円掛かり、納入後に追試を受験することができる。
卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>≪卒業条件≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全年次の出席が80%以上であること。 ・全年次の科目評価が全てD以上であること。 ・各学科で設定されている卒業基準検定を取得していること。 ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。 ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。 ・その他、生活行為等において問題がないこと。 <p>≪進級条件≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の出席が良好であること。 ・1年次の科目評価が全てD以上であること。 ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。 ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。 ・その他、生活行為等において問題がないこと。 <p>(※1)CFPポイントとはCollege-League Fieldwork Programの略称であり、人間力育成の学校教育方針のもと、積極性、社会性、地域貢献、奉仕の精神育成を目的とし、学校全体行事、学科行事、学校以外で実施される課外活動、ボランティア活動等に参加することでそれぞれポイントが付与される。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>当校はクラス担任制を採用しており、学習未達の学生、欠席が多い学生に対し次の支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任によるカウンセリング体制 ・保護者との連携（電話での状況報告、来校による面談） ・スクールカウンセラーの活用 ・学習面については、放課後、休み時間や長期休暇を活用しての補講授業を実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 卒業生がないため、実績なし			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> ・就職研修の実施（1年次2回） （就職の流れと準備、企業研究の方法、書類作成指導、求職登録） ・模擬面接指導 ・学科担当者による業界指導 ・SPI 対策授業 ・企業人事担当者からの講演 			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
韓国語能力検定試験（TOPIK）6級（最上級）取得 1名 5級 取得 10名			

ハングル能力検定 準2級取得 7名
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	2人	7.14%
(中途退学の主な理由) ・もともと学校生活に熱意がない		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・定期的な担任との面談 ・外部産業カウンセラーの活用 ・適正検査報告書を活用した学生面談 ・奨学金制度の活用		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	中国語コミュニケーション科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1700 単位時間	1496 単位 時間	85 単位時 間	136 単位 時間	単位時間	単位時間
			1717 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		4人	0人	1人	5人	6人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業方法は、通年を通して座学及び演習が中心です。 「英語+中国語」の2つの外国語の基礎技能を徹底的に学び、これからの国際社会で活躍できる人材を育成することを目的としています。 そのため、外国語の習得はもちろん文化や社会の理解、異文化コミュニケーション能力、世界で通用するホスピタリティマインドを習得できるカリキュラムとなっています。 2年間のうちに姉妹校での研修プログラムを実施しています。学んだ語学を活用し、学生一人一人が1年次で学んだ語学の習得を確認すること、そして、2年次での学びの目標を設定することを目的としています。 2年次ではアウトプットを中心に授業を進め、学んだ語学を活用し、生活のこと、身の回りのこと、時事問題のことについてもコミュニケーションが図れ、話す、聞く、

読む、書く能力を身に付け、中級レベル取得を目指します。

成績評価の基準・方法

(概要)

- ・成績評価は原則として科目ごとに、前期・後期終了後、それぞれ1回ずつ行う。
- ・成績評価は、科目ごとに出席率、普段の授業態度及び学習意欲、科目終了時の考査・確認テスト、検定取得状況、提出物を基に行う。
- ・検定対策科目については、検定結果を重視して評価を行う。
- ・評価形式はA・B・C・Dの4段階で行い、成績表に記載される。
- ・成績基準については、以下の通りとする。
 - A:秀(100-90) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた。
 - B:優(89-80) 達成目標を十分に達成している。
 - C:良(79-70) 達成目標を達成している。
 - D:可(69-60) 達成目標を最低限達成している。
 - F:不可(59-0) 達成目標に達成していない。
- ・各科目の出席時間数の80%に満たない場合は学期末試験を受験することができないが、不足した時間数を補講で補い、課せられた課題を提出することで追試験を受験することができる。また、追試験等で合格した科目評価は原則D評価となる。
- ・期末試験でF評価であった場合、追試験を受験することができるが、原則として追試験合格についてはD評価となる。
- ・追試験等は1科目につき受験料3,000円掛かり、納入後に追試を受験することができる。

卒業・進級の認定基準

(概要)

《卒業条件》

- ・全年次の出席が80%以上であること。
- ・全年次の科目評価が全てD以上であること。
- ・各学科で設定されている卒業基準検定を取得していること。
- ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。
- ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。
- ・その他、生活行為等において問題がないこと。

《進級条件》

- ・1年次の出席が良好であること。
- ・1年次の科目評価が全てD以上であること。
- ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。
- ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。
- ・その他、生活行為等において問題がないこと。

(※1)CFPポイントとはCollege-League Fieldwork Programの略称であり、人間力育成の学校教育方針のもと、積極性、社会性、地域貢献、奉仕の精神育成を目的とし、学校全体行事、学科行事、学校以外で実施される課外活動、ボランティア活動等に参

加することでそれぞれポイントが付与される。
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>当校はクラス担任制を採用しており、学習未達の学生、欠席が多い学生に対し次の支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任によるカウンセリング体制 ・保護者との連携（電話での状況報告、来校による面談） ・スクールカウンセラーの活用 ・学習面については、放課後、休み時間や長期休暇を活用しての補講授業を実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 卒業生がいないため、実績なし			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> ・就職研修の実施（1年次2回） （就職の流れと準備、企業研究の方法、書類作成指導、求職登録） ・模擬面接指導 ・学科担当者による業界指導 ・SPI 対策授業 ・企業人事担当者からの講演 			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
中国語検定 4級取得 2名中2名（100%）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	1人	33.3%
(中途退学の主な理由)		
<ul style="list-style-type: none"> ・就職を希望 		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な担任との面談 ・外部産業カウンセラーの活用 ・適正検査報告書を活用した学生面談 		

・奨学金制度の活用

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	国際エアライン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1700 単位時間	1071 単位 時間	136 単位 時間	493 単位 時間	単位時間	単位時間
			1700 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	30 人	0 人	1 人	15 人	16 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>授業方法は、通年を通して座学及び演習が中心です。</p> <p>1 年次では海外研修プログラムを実施しており、外国の方々に接する機会が多い航空業界で働く人材として、海外から見た日本を理解し、同時に異文化理解を深めることを目的としています。</p> <p>カリキュラム内容の特徴は、以下の 4 項目です。</p> <p>1) 航空業界で即戦力となる学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門知識として、インフィニ航空券予約・発券システムオペレーション技能の習得 ・ホスピタリティ精神を持ち、チームで働く力「チーム力」を身に付ける ・航空業界の専門知識の習得 <p>2) 人間力育成に繋がる経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ及びボランティア活動の促進 (空港・ホテルインターンシップ、手話ボランティア活動) <p>3) マナーの習慣化と立ち振る舞い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活からマナー指導と立ち振る舞いを徹底的に指導 <p>4) 語学力の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国のお客様に対応できるような英語＋第二外国語の習得
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は原則として科目ごとに、前期・後期終了後、それぞれ 1 回ずつ行う。 ・成績評価は、科目ごとに出席率、普段の授業態度及び学習意欲、科目終了時の 考査・確認テスト、検定取得状況、提出物を基に行う。 ・検定対策科目については、検定結果を重視して評価を行う。 ・評価形式は A・B・C・D の 4 段階で行い、成績表に記載される。 ・成績基準については、以下の通りとする。

<p>A:秀(100-90) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた。 B:優(89-80) 達成目標を十分に達成している。 C:良(79-70) 達成目標を達成している。 D:可(69-60) 達成目標を最低限達成している。 F:不可(59-0) 達成目標に達成していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の出席時間数の80%に満たない場合は学期末試験を受験することができないが、不足した時間数を補講で補い、課せられた課題を提出することで追試試験を受験することができる。また、追試試験等で合格した科目評価は原則D評価となる。 ・期末試験でF評価であった場合、追試試験を受験することができるが、原則として追試合格についてはD評価となる。 ・追試試験等は1科目につき受験料3,000円掛かり、納入後に追試を受験することができる。
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>《卒業条件》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全年次の出席が80%以上であること。 ・全年次の科目評価が全てD以上であること。 ・各学科で設定されている卒業基準検定を取得していること。 ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。 ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。 ・その他、生活行為等において問題がないこと。 <p>《進級条件》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の出席が良好であること。 ・1年次の科目評価が全てD以上であること。 ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。 ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。 ・その他、生活行為等において問題がないこと。 <p>(※1)CFPポイントとはCollege-League Fieldwork Programの略称であり、人間力育成の学校教育方針のもと、積極性、社会性、地域貢献、奉仕の精神育成を目的とし、学校全体行事、学科行事、学校以外で実施される課外活動、ボランティア活動等に参加することでそれぞれポイントが付与される。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>当校はクラス担任制を採用しており、学習未達の学生、欠席が多い学生に対し次の支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任によるカウンセリング体制 ・保護者との連携(電話での状況報告、来校による面談) ・スクールカウンセラーの活用 ・学習面については、放課後、休み時間や長期休暇を活用しての補講授業を実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	11人 (91.7%)	1人 (8.3%)
(主な就職、業界等) 航空業界（客室乗務員、グランドスタッフ、グランドハンドリング） ホテル業界 販売業			
(就職指導内容) ・就職研修の実施（1年次2回） （就職の流れと準備、企業研究の方法、書類作成指導、求職登録） ・模擬面接指導 ・学科担当者による業界指導 ・SPI 対策授業 ・企業人事担当者からの講演			
(主な学修成果（資格・検定等）) 国際線 INFINI 予約・運賃 中級 72.7% 国内線 INFINI 予約・運賃 初級 87.5% 秘書検定2級取得 8名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	2人	6.67%
(中途退学の主な理由) ・学校の雰囲気が合わない ・経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・定期的な担任との面談 ・外部産業カウンセラーの活用 ・適正検査報告書を活用した学生面談 ・奨学金制度の活用		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養 専門課程	観光デザイン科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2		1700	1122 単位 時間	272 単位 時間	323 単位 時間	単位時間	単位時間

年	昼	単位時間		1717 単位時間		
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人	8 人	0 人	1 人	9 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>授業方法は、通年を通して座学及び演習が中心です。</p> <p>1 年次では国内旅行業務取扱管理者試験取得を目指した国家試験対策授業が中心となります。2 年次では資格試験の学習を活かした演習および実習が中心としたカリキュラムです。また、1 年次で海外研修プログラムを実施しており、旅の魅力を再発見するとともに、海外添乗実習を兼ねて 2 年次で学ぶ「海外旅行実務」の事前実地実習を行います。</p> <p>観光デザイン科の特徴は次の 5 項目です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国家試験の取得による業界即戦力の育成 2) 語学学習、海外研修、留学生との交流を通して異文化理解を深める 3) 地域交流やボランティア活動を通じた人間力の育成 4) 付加価値を見出せる「創造力」を身に付ける 5) 学生生活を通して業界で必要とされる EQ（心の知能指数）を高める <p>以上の 5 つの特徴に重点を置き、社会で必要とされる人材を目指します。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価は原則として科目ごとに、前期・後期終了後、それぞれ 1 回ずつ行う。 ・成績評価は、科目ごとに出席率、普段の授業態度及び学習意欲、科目終了時の考査・確認テスト、検定取得状況、提出物を基に行う。 ・検定対策科目については、検定結果を重視して評価を行う。 ・評価形式は A・B・C・D の 4 段階で行い、成績表に記載される。 ・成績基準については、以下の通りとする。 <ul style="list-style-type: none"> A: 秀 (100-90) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた。 B: 優 (89-80) 達成目標を十分に達成している。 C: 良 (79-70) 達成目標を達成している。 D: 可 (69-60) 達成目標を最低限達成している。 F: 不可 (59-0) 達成目標に達成していない。 ・各科目の出席時間数の 80% に満たない場合は学期末試験を受験することができないが、不足した時間数を補講で補い、課せられた課題を提出することで追試験を受験することができる。また、追試験等で合格した科目評価は原則 D 評価となる。 ・期末試験で F 評価であった場合、追試験を受験することができるが、原則として追試験合格については D 評価となる。 ・追試験等は 1 科目につき受験料 3,000 円掛かり、納入後に追試を受験することができる。

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>《卒業条件》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全年次の出席が80%以上であること。 ・全年次の科目評価が全てD以上であること。 ・各学科で設定されている卒業基準検定を取得していること。 ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。 ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。 ・その他、生活行為等において問題がないこと。 <p>《進級条件》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次の出席が良好であること。 ・1年次の科目評価が全てD以上であること。 ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。 ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。 ・その他、生活行為等において問題がないこと。 <p>(※1)CFPポイントとはCollege-League Fieldwork Programの略称であり、人間力育成の学校教育方針のもと、積極性、社会性、地域貢献、奉仕の精神育成を目的とし、学校全体行事、学科行事、学校以外で実施される課外活動、ボランティア活動等に参加することでそれぞれポイントが付与される。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>当校はクラス担任制を採用しており、学習未達の学生、欠席が多い学生に対し次の支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任によるカウンセリング体制 ・保護者との連携（電話での状況報告、来校による面談） ・スクールカウンセラーの活用 ・学習面については、放課後、休み時間や長期休暇を活用しての補講授業を実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等) 卒業生がないため、実績なし			
(就職指導内容)			
<ul style="list-style-type: none"> ・就職研修の実施（1年次2回） （就職の流れと準備、企業研究の方法、書類作成指導、求職登録） ・模擬面接指導 ・学科担当者による業界指導 ・SPI対策授業 ・企業人事担当者からの講演 			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
国内旅行業務取扱管理者試験 6名合格（85.7%）			

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・定期的な担任との面談 ・外部産業カウンセラーの活用 ・適正検査報告書を活用した学生面談 ・奨学金制度の活用		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	国際観光大学併修科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼	3400 単位時間	2499 単 位時間	510 単 位 時間	391 単 位 時間	単位時間	単位時間
			3400 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
35人		5人	0人	2人	15人	17人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業方法は、通年を通して座学及び演習が中心です。 「語学力」と「観光分野」両方の専門知識を高め、インバウンド観光に対応できる企画力と国際対応力のある人材育成を目指します。 1年次では国内旅行業務取扱管理者試験取得、を目指した国家試験対策授業、2年次は資格を活かした演習及び実習が中心となります。 3年次では語学を中心に、「話す」、「聞く」、「書く」、「読む」の4技能の習得を中心に行います。4年次では、3年次で習得した英語の基礎力を生かし、アウトプットを中心に語学の習得を目指します。 また、1年次では語学、観光の2分野の知識を深めることを目的に海外研修プログラムを実施し、語学力の学びの重要性と旅の魅力を再発見するとともに、海外添乗実習を兼ね、2年次で学ぶ「海外旅行実務」を事前に実地学習をします。

国際観光大学併修科カリキュラムは以下の7項目を基にしています。

- 1) グローバル社会において必要とされるコミュニケーション能力の習得
- 2) 語学の学び、海外研修、留学生との交流を通して異文化理解を深める
- 3) 国際交流、異文化理解を通し多様な価値観を理解し、発信する力を養う
- 4) 観光分野における国家試験の取得により、業界即戦力の育成
- 5) 地域交流やボランティア活動を通じた人間力の育成
- 6) 付加価値を創造する創造力を身に着ける
- 7) 学生生活を通して業界で必要とされるEQ（心の知能指数）を高める。

成績評価の基準・方法

（概要）

- ・成績評価は原則として科目ごとに、前期・後期終了後、それぞれ1回ずつ行う。
- ・成績評価は、科目ごとに出席率、普段の授業態度及び学習意欲、科目終了時の考査・確認テスト、検定取得状況、提出物を基に行う。

- ・検定対策科目については、検定結果を重視して評価を行う。
- ・評価形式はA・B・C・Dの4段階で行い、成績表に記載される。

- ・成績基準については、以下の通りとする。
 - A:秀(100-90) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた。
 - B:優(89-80) 達成目標を十分に達成している。
 - C:良(79-70) 達成目標を達成している。
 - D:可(69-60) 達成目標を最低限達成している。
 - F:不可(59-0) 達成目標に達成していない。

- ・各科目の出席時間数の80%に満たない場合は学期末試験を受験することができないが、不足した時間数を補講で補い、課せられた課題を提出することで追試験を受験することができる。また、追試験等で合格した科目評価は原則D評価となる。
- ・期末試験でF評価であった場合、追試験を受験することができるが、原則として追試験合格についてはD評価となる。
- ・追試験等は1科目につき受験料3,000円掛かり、納入後に追試を受験することができる。

卒業・進級の認定基準

（概要）

《卒業条件》

- ・全年次の出席が80%以上であること。
- ・全年次の科目評価が全てD以上であること。
- ・各学科で設定されている卒業基準検定を取得していること。
- ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。
- ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。
- ・その他、生活行為等において問題がないこと。

《進級条件》

- ・1年次の出席が良好であること。
- ・1年次の科目評価が全てD以上であること。

<ul style="list-style-type: none"> ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。 ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。 ・その他、生活行為等において問題がないこと。 <p>(※1)CFPポイントとはCollege-League Fieldwork Programの略称であり、人間力育成の学校教育方針のもと、積極性、社会性、地域貢献、奉仕の精神育成を目的とし、学校全体行事、学科行事、学校以外で実施される課外活動、ボランティア活動等に参加することでそれぞれポイントが付与される。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>当校はクラス担任制を採用しており、学習未達の学生、欠席が多い学生に対し次の支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任によるカウンセリング体制 ・保護者との連携（電話での状況報告、来校による面談） ・スクールカウンセラーの活用 ・学習面については、放課後、休み時間や長期休暇を活用しての補講授業を実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 卒業生がいないため、実績なし			
(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・就職研修の実施（1年次2回） （就職の流れと準備、企業研究の方法、書類作成指導、求職登録） ・模擬面接指導 ・学科担当者による業界指導 ・SPI対策授業 ・企業人事担当者からの講演 			
(主な学修成果（資格・検定等）) 国内旅程管理主任者試験 取得2名 総合旅行業務取扱管理者試験 取得1名			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
3人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		

(中退防止・中退者支援のための取組) ・定期的な担任との面談 ・外部産業カウンセラーの活用 ・適正検査報告書を活用した学生面談 ・奨学金制度の活用

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	専攻科 オンライン 韓国語専攻コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	800 単位時間	809 単位 時間	単位時間	単位 時間	単位時間	単位時間
			809 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10 人		3 人	0 人	1 人	4 人	5 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画) (概要) 授業方法は、通年を通して座学及び演習が中心です。 「英語+韓国語」の2つの外国語の基礎技能を徹底的に学び、これからの国際社会で活躍できる人材を育成することを目的としています。 そのため、外国語の習得はもちろん文化や社会の理解、異文化コミュニケーション能力、世界で通用するホスピタリティマインドを習得できるカリキュラムとなっています。 1年次の終わりに姉妹校での韓国研修プログラムを実施しています。学んだ語学の活用を目的とした海外研修プログラムが必須となります。
成績評価の基準・方法 (概要) ・成績評価は原則として科目ごとに、前期・後期終了後、それぞれ1回ずつ行う。 ・成績評価は、科目ごとに出席率、普段の授業態度及び学習意欲、科目終了時の 考査・確認テスト、検定取得状況、提出物を基に行う。 ・検定対策科目については、検定結果を重視して評価を行う。 ・評価形式はA・B・C・Dの4段階で行い、成績表に記載される。 ・成績基準については、以下の通りとする。 A:秀(100-90) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた。 B:優(89-80) 達成目標を十分に達成している。 C:良(79-70) 達成目標を達成している。 D:可(69-60) 達成目標を最低限達成している。 F:不可(59-0) 達成目標に達成していない。

- ・各科目の出席時間数の80%に満たない場合は学期末試験を受験することができないが、不足した時間数を補講で補い、課せられた課題を提出することで追試試験を受験することができる。また、追試試験等で合格した科目評価は原則D評価となる。
- ・期末試験でF評価であった場合、追試試験を受験することができるが、原則として追試合格についてはD評価となる。
- ・追試試験等は1科目につき受験料3,000円掛かり、納入後に追試を受験することができる。

卒業・進級の認定基準

(概要)

《卒業条件》

- ・全年次の出席が80%以上であること。
- ・全年次の科目評価が全てD以上であること。
- ・各学科で設定されている卒業基準検定を取得していること。
- ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。
- ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。
- ・その他、生活行為等において問題がないこと。

《進級条件》

- ・1年次の出席が良好であること。
- ・1年次の科目評価が全てD以上であること。
- ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。
- ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。
- ・その他、生活行為等において問題がないこと。

(※1)CFPポイントとはCollege-League Fieldwork Programの略称であり、人間力育成の学校教育方針のもと、積極性、社会性、地域貢献、奉仕の精神育成を目的とし、学校全体行事、学科行事、学校以外で実施される課外活動、ボランティア活動等に参加することでそれぞれポイントが付与される。

学修支援等

(概要)

当校はクラス担任制を採用しており、学習未達の学生、欠席が多い学生に対し次の支援を行っている。

- ・担任によるカウンセリング体制
- ・保護者との連携（電話での状況報告、来校による面談）
- ・スクールカウンセラーの活用
- ・学習面については、放課後、休み時間や長期休暇を活用しての補講授業を実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	2人 (100%)

(主な就職、業界等)

ホテル 空港 一般企業

(就職指導内容) <ul style="list-style-type: none"> ・就職研修の実施（1年次2回） （就職の流れと準備、企業研究の方法、書類作成指導、求職登録） ・模擬面接指導 ・学科担当者による業界指導 ・SPI 対策授業 ・企業人事担当者からの講演
(主な学修成果（資格・検定等）) 韓国語能力検定（TOPIK）4級 2名合格（100%）
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な担任との面談 ・外部産業カウンセラーの活用 ・適正検査報告書を活用した学生面談 ・奨学金制度の活用 		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	専攻科 英語留学コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	850 単位時間	595 単位 時間	170 単位 時間	119 単 位時間	単位時間	単位時間
			884 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10人		1人	0人	1人	9人	10人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） (概要) 通年を通して座学及び演習が中心です。 語学力向上と並行し、グローバル人材育成を目指し「環境に強い」「柔軟に対応できる」「変化に強い」という3つの要素を身に着けることを目指します。 英語の授業はレベル別クラスであり、1年次では基礎固めとなる英語演習をはじめ、発音ベースを学ぶフォニックスの授業、日常会話表現を学べる会話授業、

ホテルなどで使用する語彙、イディオムから表現方法を学びます。また、語学の向上は勿論、グローバル人材育成を目的として、1年次の後期には授業の一環で海外研修プログラムに参加します。

社会で活用できる英語能力の向上を目的に1年次の7月、9月、11月にはTOEICを受験します。

成績評価の基準・方法

(概要)

- ・成績評価は原則として科目ごとに、前期・後期終了後、それぞれ1回ずつ行う。
- ・成績評価は、科目ごとに出席率、普段の授業態度及び学習意欲、科目終了時の考査・確認テスト、検定取得状況、提出物を基に行う。

- ・検定対策科目については、検定結果を重視して評価を行う。
- ・評価形式はA・B・C・Dの4段階で行い、成績表に記載される。

- ・成績基準については、以下の通りとする。
A:秀(100-90) 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めた。
B:優(89-80) 達成目標を十分に達成している。
C:良(79-70) 達成目標を達成している。
D:可(69-60) 達成目標を最低限達成している。
F:不可(59-0) 達成目標に達成していない。

- ・各科目の出席時間数の80%に満たない場合は学期末試験を受験することができないが、不足した時間数を補講で補い、課せられた課題を提出することで追試試験を受験することができる。また、追試試験等で合格した科目評価は原則D評価となる。
- ・期末試験でF評価であった場合、追試試験を受験することができるが、原則として追試合格についてはD評価となる。
- ・追試試験等は1科目につき受験料3,000円掛かり、納入後に追試を受験することができる。

卒業・進級の認定基準

(概要)

《卒業条件》

- ・全年次の出席が80%以上であること。
- ・全年次の科目評価が全てD以上であること。
- ・各学科で設定されている卒業基準検定を取得していること。
- ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。
- ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。
- ・その他、生活行為等において問題がないこと。

《進級条件》

- ・1年次の出席が良好であること。
- ・1年次の科目評価が全てD以上であること。
- ・CFPポイント(※1)が基準である11ポイント以上であること。
- ・学費・実習費、その他必要な納入金をすべて納入していること。
- ・その他、生活行為等において問題がないこと。

<p>(※1)CFP ポイントとは College-League Fieldwork Program の略称であり、人間力育成の学校教育方針のもと、積極性、社会性、地域貢献、奉仕の精神育成を目的とし、学校全体行事、学科行事、学校以外で実施される課外活動、ボランティア活動等に参加することでそれぞれポイントが付与される。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>当校はクラス担任制を採用しており、学習未達の学生、欠席が多い学生に対し次の支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任によるカウンセリング体制 ・保護者との連携（電話での状況報告、来校による面談） ・スクールカウンセラーの活用 ・学習面については、放課後、休み時間や長期休暇を活用しての補講授業を実施

<p>卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>近年、卒業生がいないため実績なし</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職研修の実施（1年次2回） （就職の流れと準備、企業研究の方法、書類作成指導、求職登録） ・模擬面接指導 ・学科担当者による業界指導 ・SPI 対策授業 ・企業人事担当者からの講演 			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>近年、在校生がいないため実績なし</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

<p>中途退学の現状</p>		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
<p>(中途退学の主な理由)</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な担任との面談 ・外部産業カウンセラーの活用 		

- ・適正検査報告書を活用した学生面談
- ・奨学金制度の活用

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意 記載事項)
国際英語コミュニケーション科	70,000 円	690,000 円	330,000 円	
国際英語コミュニケーション科 (3年制)	70,000 円	690,000 円	330,000 円	
韓国語コミュニケーション科	70,000 円	690,000 円	330,000 円	
中国語コミュニケーション科	70,000 円	690,000 円	330,000 円	
国際エアライン科	70,000 円	690,000 円	330,000 円	
観光デザイン科	70,000 円	690,000 円	330,000 円	
国際観光大学併修科	70,000 円	690,000 円	330,000 円	
専攻科 オンライン韓国語コース	70,000 円	690,000 円	0 円	
専攻科 英語留学コース	70,000 円	690,000 円	330,000 円	
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 国際外語・観光・エアライン専門学校 ホームページ https://www.air.ac.jp/koukai
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)
<p>◆基本方針</p> <p>「専修学校における学校評価ガイドライン」11項目について自己評価を行う。その自己評価を基に、学校関係者評価委員会を実施する。そこでの評価、意見を基に教育水準の向上及び学校運営の発展に努める。</p> <p>◆学校関係者評価委員会の実施について</p> <p>年度末に学校関係者評価委員会を実施する。</p> <p>◆学校関係者委員</p> <p>2名(企業委員1名、卒業生1名)</p> <p>◆専修学校における学校評価ガイドライン項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育理念・目標 2) 学校運営 3) 教育活動 4) 学修成果

5) 学生支援 6) 教育環境 7) 学生の受け入れ募集 8) 財務 9) 法令遵守 10) 社会貢献・地域貢献 11) 国際交流 ◆評価結果の活用方法 自己評価を基に、学校関係評価者委員からの評価、意見を頂き教育水準の向上及び学校運営の発展に活かす。また、改善点及び今後の取り組みについてはホームページ上に公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
新潟日米協会	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年間)	企業委員
一般社団法人魚沼市観光協会	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日 (2年間)	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 国際外語・観光・エアライン専門学校 ホームページ https://www.air.ac.jp/koukai		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 国際外語・観光・エアライン専門学校 ホームページ https://www.air.ac.jp/koukai
--